

●『楽観的帰属様式の臨床心理学的研究』

著者：沢宮容子

発行：風間書房／2012年2月

価格：本体 6,500 円＋税

判型：A5 判，204 頁

ISBN：978-4-7599-1914-1



【内容紹介】

本書は、2007 年度に筑波大学に提出された博士論文「楽観的帰属様式に関する臨床心理学的研究」を基に再構成されたものです。ポジティブ心理学の代表的概念である「楽観性」に着目し、学習性無力感の形成と原因帰属に関連する先行研究を概観した上で、残された課題を究明するとともに、「悲観的帰属様式」を「楽観的帰属様式」へと変容させる方法やプロセスを明らかにしています。

具体的には、序論にあたる第 1 章で本研究の意義と基本概念の定義を行い、第 2 章で楽観性および楽観的帰属様式に関する研究の動向について概観した上で、第 3 章で従来の研究における課題を指摘し、第 4 章以降でそれらの課題に答えを与えています。

課題の第 1 は、信頼性と妥当性を備えた「楽観的帰属様式尺度」の日本語版を作成すること。第 2 は、楽観的帰属様式の性質を明らかにすること。第 3 は、楽観的帰属様式が本人ばかりでなく他者に対しても望ましい影響を与えるという側面に着目し、母親の楽観的帰属様式と幼児の社会性との関連について検討すること。そして第 4 は、認知行動療法のプログラムを適用し、悲観的帰属様式を楽観的帰属様式へと変容させる方法とその効果について検討することです。

本研究は人間のよりポジティブな側面に焦点を当てた「楽観性」による肯定的介入の応用可能性に大きな示唆を与えています。本書に至る一連の研究によって、著者は日本カウンセリング学会独創研究内山喜久雄記念賞を受賞しました。日本では数少ないポジティブ心理学の先駆的研究として位置づけられる一冊です。

【出版社の書籍紹介ページ】

http://www.kazamashobo.co.jp/products/detail.php?product_id=1209

【著者紹介】

沢宮容子（筑波大学心理学域教授）